

委託事業実施内容報告書
令和3年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

実施内容報告書

団体名：学校法人聖心女子学院

1. 事業の概要

事業名称	大学を拠点とした地域日本語教室の展開
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	聖心女子大学がある東京渋谷区の課題は2点ある。日本語教室の数が少ないこと(課題A)、ボランティアが高齢化していること(課題B)である。渋谷区は人口の4%強が外国籍住民であり、隣接する港区(8%弱が外国籍住民)を考慮すると、外国籍住民は多い地域であると言える。同区は日本語教育のニーズが高く、東京ボランティアネットワークによると、学習希望者からの問い合わせ件数(2019年)は新宿区、練馬区に続いて3位である。一方、日本語教室の数は新宿区9、練馬区11、に対して渋谷区は4教室しかない。また渋谷区に限ったことではないが、ボランティアの高齢化が東京都でも大きな課題となっている。これらの課題を解決するために、今年度、聖心女子大学では、仕事等で月曜昼クラスに参加できない学習者のために、金曜夜クラスを増設した。増設時の狙い通り、渋谷区周辺で働く学習者が集まり、クチコミ等により前期より後期と人数が増え、少しずつではあるが夜クラスが存在が認識されつつある。1年間の取り組みを終え、聖心女子大学の企画が教室数の確保に貢献し、幅広い年齢のボランティアへアプローチできたことは以下で具体的に述べる。
事業の目的	聖心女子大学には日本語教育実践の場所や、日本語教育に関する専門的知見や実践ノウハウもある。そこに学生を巻き込み形で日本語教育人材の育成を展開する。聖心女子大学はキャンパス内に、聖心グローバルプラザを有する。聖心グローバルプラザは元々青年海外協力隊の合宿所などを備えたJICAの施設であり、国際交流の拠点として機能してきた。この施設を核にして、地域在住の外国人が集まれる場所を提供したいと考えている。教室数の少ない渋谷区に、物理的な教育の場所を確保することができるようになる。また学校法人聖心女子学院のネットワークを活用することで、広く高校生や大学生を対象とした人材育成を行い、地域の日本語教育に貢献したいと考える。若者が高校生や大学生の間に少しでも地域日本語教育に関わることで、本格的なボランティア活動を始めるきっかけになると考えている。具体的には、標準的なカリキュラム案を活用した教材の作成、それを生かした日本語教育の実施、日本語教育の人材養成・研修等の取り組みを実施し、地域の日本語教育の体制整備に貢献することを目的とする。
本事業の対象とする空白地域の実情(空白地域を含む場合のみ記入)	該当なし
事業内容の概要	①日本語教育の実施 大学内で地域向け日本語教室を運営した。初級レベルの日常会話を目標とした。2コマをワンセットとして、1コマ目は日本語教師が教室形式で教え、もう1コマは学生ボランティアと交流型で活動を行った。(講師は現場にいて指導) ②日本語教育を行う人材の養成・研修の実施 ボランティア養成講座を運営した。養成講座にはなるべく高校生や大学生が参加できるように関係機関に広報を行った。また昨年度に引き続き高校生・大学生だけを対象にしたものも開講。そこから一般のボランティア養成講座に入ってくるきっかけとした。内容に関しては、広尾に近い目黒で「さぼうと21」が体系的な講座を運営しているため、連携を密に取って、開講する講座内容が重ならないように工夫した。 ③日本語教育のための学習教材の作成 日本語教育の実施(①)の実践のために自作する教材を最終的に公開できる形にまとめた。トピックシラバスで、テーマごとに自分の言いたいことが言えるような仕組みの教材を目指した。 ⇒①③によって、課題Aに対応。日本語教室を安定的に運営することで渋谷区に教室が増えた。 ⇒①②によって、課題Bに対応。大学生のうちから教室活動に関わることで、継続的にボランティア活動に参加するきっかけを提供した。
事業の実施期間	令和 3年 5月～令和 4年 1月 (9か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	岩田一成	聖心女子大学 教授
2	清水由貴子	聖心女子大学 講師
3	池畑雄太	渋谷区社会福祉協議会ボランティアセンター
4	伊藤結花	東京都つながり創生財団
5	田栗春菜	港区日本語教育コーディネーター
6	矢崎理恵	さぼうと21
7	和泉智恵	聖心女子大学日本語教室講師
8	中川美保	聖心女子大学日本語教室講師
9		
10		



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和2年6月11日 (金) 10:00～11:00	1時間	オンライン	岩田一成・清水由貴子・池畑雄太・伊藤結花・田栗春菜・矢崎理恵・和泉智恵・中川美保	1.運営委員紹介 2.事業概要説明 3.講座(日本語・ボランティア養成)について 4.意見交換会
2	令和3年1月24日 (金) 10:00～11:00	1時間	オンライン	岩田一成・清水由貴子・池畑雄太・伊藤結花・田栗春菜・矢崎理恵・和泉智恵・中川美保	1.各事業報告 2.意見交換会
3					
4					

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	計画通り、運営委員に港区の日本語教育担当者、渋谷区社会福祉協議会ボランティアセンター、東京都の国際交流委員会、難民支援のための社会福祉法人さぼうと21の関係者が参加して下さった。運営委員会では、各団体の立場から助言をいただき、建設的な議論ができた(今後の教室のあり方や地域との関わりについて)。また、参加者募集や広報では各団体が協力して下さった。各団体と適宜情報を交換し、必要場合は日本語学習者に互いの教室を紹介するなどして、連携体制が深まりつつある。聖心女子大学の日本語教員課程の学生も定期的に関わってくれた。行政と民間と大学の連携によりお互いの長所を生かして連携体制を取ることで、地域色がより強まったのではないかとと言える。
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	岩田一成、和泉智恵、中川美保の3名は運営に関わる中核メンバーであり、運営委員会に参加している。この3名は少しずつ役割分担をしつつも、実質上すべての企画(日本語教育の実施、日本語教育を行う人材の養成・研修の実施、日本語教育のための学習教材の作成)に関わった。また、聖心女子大学が事務面でサポートに入った。学校法人聖心女子学院の各教育機関(各地にある高等学校及び聖心インターナショナル)とは連携をとりながら進めた。運営は大学教員のネットワークを生かして行い、適宜、行政(東京都、渋谷区、港区)、さぼうと21と連携を取りながら、社会課題を解決できるように進めた。
----------	--

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称:初級教育における学校型と交流型の連携】										
取組の目標	日常生活に必要な初級レベルの日本語会話能力を育成する									
内容	<p>ゼロ初級の学習者を対象に、講師が行う学校型の授業(90分)を週2回(月午前と金夜)、学生との交流型の活動(90分)を週1回(月午後)実施した。</p> <p>講師による授業 月曜日午前90分/金曜日夜90分 学生との交流活動 月曜日午後90分 ⇒これらを前期16回(4月から開始したため、14回分は聖心女子大学の自主財源で行った)、後期30回行った。 前期[90×16=1440(24時間)] 後期[90×30=2700(45時間)] ⇒合計 69時間</p> <p>参加した学習者のニーズに合わせたテーマ設定を行った。 学校型では場面シラバス、トピックシラバスによる授業を行った。例として以下のようなテーマ設定し、それぞれのテーマに関連する文法の指導も行っている。 1、自己紹介 2、防災 3、毎日の生活 (その他のテーマは以下に詳細を示す) 交流型では主に動画を導入教材として使用し、学生ボランティアとのトークセッションや発表を行った。</p>									
実施期間	令和3年5月28日～令和3年12月3日	授業時間・コマ数	1回 1.5時間 × 46回 = 69時間							
対象者	聖心女子大学近隣在住の外国籍住民		参加者	総数 87人 (受講者43人、指導者・支援者等44人 (内訳:指導者2人、補助1人、学生ボランティア41人))						
カリキュラム案活用	『カリキュラム案』の「生活上の行為の事例」から、場面を参考にして授業に対応した(授業は場面別で行った)。『ガイドブック』は「言語習得の考え方」を講師と共有し、外国人参加者の状況に合わせて「日本語教育プログラムの具体例」を参考に組み立てた。その際、『教材例集』を活用した。評価の際、『日本語能力評価』から「生活上の行為達成の記録・評価リスト」を参考に評価を行った。									
使用した教材・リソース	自作教材(トピック・場面シラバスによる初級教材)									
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	6	18		2						
シンガポール(1人)、香港(2人)、チェコ(1人)、インド(2人)、アメリカ(4人)、オーストラリア(2人)、ジンバブエ(1人)、フランス(2人)、キプロス(1人)、イギリス(1人)										
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和3年5月28日(金) 18:30～20:00	1.5	オンライン	3	旅行の思い出	<ul style="list-style-type: none"> ことばの確認 会話練習① 文型・表現確認 会話練習② CandoCheckフォーム記入 	中川美保	補助:1名 学生ボランティア:4名		
2	令和3年5月31日(月) 10:40～12:20	1.5	オンライン	9	ネットショッピング	<ul style="list-style-type: none"> ことばの確認 会話練習① 文型・表現確認 会話練習② CandoCheckフォーム記入 	和泉智恵	コーディネーター:1名 学生ボランティア:6名		
3	令和3年5月31日(月) 13:30～15:00	1.5	オンライン	4	買い物	<ul style="list-style-type: none"> 活動①—毎日の生活について話す 動画視聴 活動②—今日のテーマで話す*国との比較 日本理解+関連語彙 ふりかえり 	中川美保	コーディネーター:1名 学生ボランティア:5名		
4	令和3年6月4日(金) 18:30～20:00	1.5	オンライン	1	ネットショッピング	<ul style="list-style-type: none"> ことばの確認 会話練習① 文型・表現確認 会話練習② CandoCheckフォーム記入 	中川美保	補助:1名 学生ボランティア:2名		

5	令和3年6月7日(月) 10:40~12:20	1.5	オンライン	8	健康と美容	<ul style="list-style-type: none"> ことばの確認 会話練習① 文型・表現確認 会話練習② CandoCheckフォーム記入 	和泉智恵	コーディネーター:1名 学生ボランティア:5名
6	令和3年6月7日(月) 13:30~15:00	1.5	オンライン	4	健康(コロナ)	<ul style="list-style-type: none"> 動画視聴① 資料を読む(コロナ) 資料を読む(ワクチン接種) 動画視聴② 	中川美保	コーディネーター:1名 学生ボランティア:5名
7	令和3年6月11日(金) 18:30~20:00	1.5	オンライン	3	健康と美容	<ul style="list-style-type: none"> ことばの確認 会話練習① 文型・表現確認 会話練習② CandoCheckフォーム記入 	中川美保	補助:1名 学生ボランティア:4名
8	令和3年6月14日(月) 10:40~12:20	1.5	オンライン	8	おすすめの店	<ul style="list-style-type: none"> ことばの確認 会話練習① 文型・表現確認 会話練習② CandoCheckフォーム記入 	和泉智恵	コーディネーター:1名 学生ボランティア:5名
9	令和3年14日(月) 13:30~15:00	1.5	オンライン	4	スイーツ	<ul style="list-style-type: none"> 活動①一食生活について話す 動画視聴 活動②一今日のテーマで話す 日本理解+関連語彙 ふりかえり 	中川美保	コーディネーター:1名 学生ボランティア:4名
10	令和3年6月18日(金) 18:30~20:00	1.5	オンライン	4	おすすめの店	<ul style="list-style-type: none"> ことばの確認 会話練習① 文型・表現確認 会話練習② CandoCheckフォーム記入 	中川美保	補助:1名 学生ボランティア:3名
11	令和3年6月21日(月) 10:40~12:20	1.5	オンライン	8	おすすめのレシピ	<ul style="list-style-type: none"> ことばの確認 会話練習① 文型・表現確認 会話練習② CandoCheckフォーム記入 	和泉智恵	コーディネーター:1名 学生ボランティア:7名
12	令和3年6月21日(月) 13:30~15:00	1.5	オンライン	4	レシピ紹介	<ul style="list-style-type: none"> 活動① 活動②「レシピ作成」 発表・全体共有 ふりかえり 	中川美保	コーディネーター:1名 学生ボランティア:4名
13	令和3年6月25日(金) 18:30~20:00	1.5	オンライン	2	おすすめのレシピ	<ul style="list-style-type: none"> ことばの確認 会話練習① 文型・表現確認 会話練習② CandoCheckフォーム記入 	中川美保	補助:1名 学生ボランティア:4名
14	令和3年6月28日(月) 10:40~12:20	1.5	オンライン	8	ストレス解消法	<ul style="list-style-type: none"> ことばの確認 会話練習① 文型・表現確認 会話練習② CandoCheckフォーム記入 	和泉智恵	コーディネーター:1名 学生ボランティア:7名
15	令和3年28日(月) 13:30~15:00	1.5	オンライン	4	お茶文化	<ul style="list-style-type: none"> 活動①一ストレス解消法について話す 動画視聴 活動②一今日のテーマで話す 日本理解+関連語彙 ふりかえり 	中川美保	コーディネーター:1名 学生ボランティア:4名
16	令和3年7月2日(金) 18:30~20:00	1.5	オンライン	2	ストレス解消法	<ul style="list-style-type: none"> ことばの確認 会話練習① 文型・表現確認 会話練習② CandoCheckフォーム記入 	中川美保	補助:1名 学生ボランティア:2名
17	令和3年9月27日(月) 10:40~12:20	1.5	オンライン	13	自己紹介	<ul style="list-style-type: none"> ことばの確認 会話練習① 文型・表現確認 会話練習② CandoCheckフォーム記入 	和泉智恵	コーディネーター:1名 学生ボランティア:8名
18	令和3年9月27日(月) 13:30~15:00	1.5	オンライン	10	自己紹介 わたしのふるさと	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション 自己紹介+アイスブレイキング 「わたしのふるさと」紹介 色ゲーム(色の言い方を知る) ふりかえり 	中川美保	コーディネーター:1名 学生ボランティア:4名
19	令和3年10月1日(金) 18:30~20:00	1.5	オンライン	6	自己紹介	<ul style="list-style-type: none"> ことばの確認 会話練習① 文型・表現確認 会話練習② CandoCheckフォーム記入 	中川美保	補助:1名 学生ボランティア:6名
20	令和3年10月4日(月) 10:40~12:20	1.5	オンライン	12	おすすめの場所	<ul style="list-style-type: none"> ことばの確認 会話練習① 文型・表現確認 会話練習② CandoCheckフォーム記入 	和泉智恵	コーディネーター:1名 学生ボランティア:8名
21	令和3年10月4日(月) 13:30~15:00	1.5	オンライン	8	おすすめの場所 (ご近所編)	<ul style="list-style-type: none"> 活動①一「休みの日の過ごし方」について話す 動画視聴 活動②一「おすすめの場所」を紹介する 日本理解+関連語彙 ふりかえり 	中川美保	コーディネーター:1名 学生ボランティア:5名
22	令和3年10月8日(金) 18:30~20:00	1.5	オンライン	6	おすすめの場所	<ul style="list-style-type: none"> ことばの確認 会話練習① 文型・表現確認 会話練習② CandoCheckフォーム記入 	中川美保	補助:1名 学生ボランティア:4名

23	令和3年10月11日(月) 10:40~12:20	1.5	オンライン	9	まいにちの生活	<ul style="list-style-type: none"> ことばの確認 会話練習① 文型・表現確認 会話練習② CandoCheckフォーム記入 	和泉智恵	コーディネーター:1名 学生ボランティア6名
24	令和3年10月11日(月) 13:30~15:00	1.5	オンライン	10	買い物 (コンビニ編)	<ul style="list-style-type: none"> 活動①-「買い物」について話す 動画視聴 活動② -「コンビニにあるおすすめのもの」を紹介する 日本理解+関連語彙 ふりかえり 	中川美保	コーディネーター:1名 学生ボランティア:5名
25	令和3年10月15日(金) 18:30~20:00	1.5	オンライン	6	まいにちの生活	<ul style="list-style-type: none"> ことばの確認 会話練習① 文型・表現確認 会話練習② CandoCheckフォーム記入 	中川美保	補助:1名 学生ボランティア:3名
26	令和3年10月18日(月) 10:40~12:20	1.5	オンライン	12	好きな映画・音楽・スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ことばの確認 会話練習① 文型・表現確認 会話練習② CandoCheckフォーム記入 	和泉智恵	コーディネーター:1名 学生ボランティア6名
27	令和3年10月18日(月) 13:30~15:00	1.5	オンライン	9	おすすめの映画・音楽・本	<ul style="list-style-type: none"> 活動①-「好きなもの」について話す 動画視聴 活動② -「おすすめの映画・音楽・本」を紹介する 日本理解+関連語彙 ふりかえり 	中川美保	コーディネーター:1名 学生ボランティア:3名
28	令和3年10月22日(金) 18:30~20:00	1.5	オンライン	4	好きな映画・音楽・スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ことばの確認 会話練習① 文型・表現確認 会話練習② CandoCheckフォーム記入 	中川美保	補助:1名 学生ボランティア:5名
29	令和3年10月25日(月) 10:40~12:20	1.5	オンライン	6	まつり	<ul style="list-style-type: none"> ことばの確認 会話練習① 文型・表現確認 会話練習② CandoCheckフォーム記入 	和泉智恵	コーディネーター:1名 学生ボランティア8名
30	令和3年10月25日(月) 13:30~15:00	1.5	オンライン	7	わたしの国のまつり	<ul style="list-style-type: none"> 発表モデル紹介 発表練習 グループ毎の発表×2回 全体共有 ふりかえり 	中川美保	コーディネーター:1名 学生ボランティア:5名
31	令和3年10月29日(金) 18:30~20:00	1.5	オンライン	7	まつり	<ul style="list-style-type: none"> ことばの確認 会話練習① 文型・表現確認 会話練習② CandoCheckフォーム記入 	中川美保	補助:1名 学生ボランティア:4名
32	令和3年11月1日(月) 10:40~12:20	1.5	オンライン	8	おすすめのホテル・旅館	<ul style="list-style-type: none"> ことばの確認 会話練習① 文型・表現確認 会話練習② CandoCheckフォーム記入 	和泉智恵	コーディネーター:1名 学生ボランティア6名
33	令和3年11月1日(月) 13:30~15:00	1.5	オンライン	9	旅行	<ul style="list-style-type: none"> 活動①-「旅行」について話す 動画視聴 活動②-「おすすめ旅行先」を紹介する 日本理解+関連語彙 ふりかえり 	中川美保	コーディネーター:1名 学生ボランティア:3名
34	令和3年11月5日(金) 18:30~20:00	1.5	オンライン	6	おすすめのホテル・旅館	<ul style="list-style-type: none"> ことばの確認 会話練習① 文型・表現確認 会話練習② CandoCheckフォーム記入 	中川美保	補助:1名 学生ボランティア:4名
35	令和3年11月8日(月) 10:40~12:20	1.5	オンライン	11	ストレス解消法	<ul style="list-style-type: none"> ことばの確認 会話練習① 文型・表現確認 会話練習② CandoCheckフォーム記入 	和泉智恵	コーディネーター:1名 学生ボランティア6名
36	令和3年11月8日(月) 13:30~15:00	1.5	オンライン	7	健康法	<ul style="list-style-type: none"> 活動①-「毎日の生活」について話す 動画視聴 活動②-「おすすめ健康グッズ」を紹介する 日本理解+関連語彙 ふりかえり 	中川美保	コーディネーター:1名 学生ボランティア:4名
37	令和3年11月12日(金) 18:30~20:00	1.5	オンライン	5	ストレス解消法	<ul style="list-style-type: none"> ことばの確認 会話練習① 文型・表現確認 会話練習② CandoCheckフォーム記入 	中川美保	補助:1名 学生ボランティア:2名
38	令和3年11月15日(月) 10:40~12:20	1.5	オンライン	11	災害時の準備	<ul style="list-style-type: none"> ことばの確認 会話練習① 文型・表現確認 会話練習② CandoCheckフォーム記入 	和泉智恵	コーディネーター:1名 学生ボランティア3名
39	令和3年11月15日(月) 13:30~15:00	1.5	オンライン	7	災害に備える	<ul style="list-style-type: none"> 活動①-「災害」について話す 動画視聴① 資料を読む(防災) 防災クイズ 動画視聴② 	中川美保	コーディネーター:1名 学生ボランティア:5名

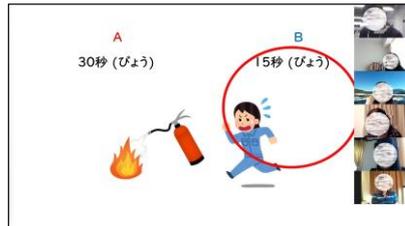
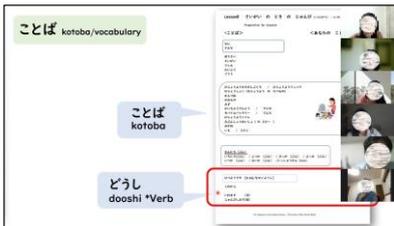
40	令和3年11月19日(金) 18:30~20:00	1.5	オンライン	4	災害時の準備	・ことばの確認 ・会話練習① ・文型・表現確認 ・会話練習② ・CandoCheckフォーム記入	中川美保	補助:1名 学生ボランティア:3名
41	令和3年11月22日(月) 10:40~12:20	1.5	オンライン	7	おすすめの店	・ことばの確認 ・会話練習① ・文型・表現確認 ・会話練習② ・CandoCheckフォーム記入	和泉智恵	コーディネーター:1名 学生ボランティア7名
42	令和3年11月22日(月) 13:30~15:00	1.5	オンライン	7	わたしの国の新年	・発表モデル紹介 ・発表練習 ・グループ毎の発表×2回 ・全体共有 ・ふりかえり	中川美保	コーディネーター:1名 学生ボランティア:5名
43	令和3年11月26日(金) 18:30~20:00	1.5	オンライン	6	おすすめの店	・ことばの確認 ・会話練習① ・文型・表現確認 ・会話練習② ・CandoCheckフォーム記入	中川美保	補助:1名 学生ボランティア:3名
44	令和3年11月29日(月) 10:40~12:20	1.5	オンライン	10	来年したいこと	・ことばの確認 ・会話練習① ・文型・表現確認 ・会話練習② ・CandoCheckフォーム記入	和泉智恵	コーディネーター:1名 学生ボランティア8名
45	令和3年11月29日(月) 13:30~15:00	1.5	オンライン	8	一年を振り返る 今年の漢字	・動画視聴「今年の漢字」 ・今年の漢字を学生ボランティアと考える ・発表・共有 ・ふりかえり	中川美保	コーディネーター:1名 学生ボランティア:5名
46	令和3年12月3日(金) 18:30~20:00	1.5	オンライン	4	来年したいこと	・ことばの確認 ・会話練習① ・文型・表現確認 ・会話練習② ・CandoCheckフォーム記入	中川美保	補助:1名 学生ボランティア:4名

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第38・39回 令和3年11月15日/第40回 令和3年11月19日】 防災

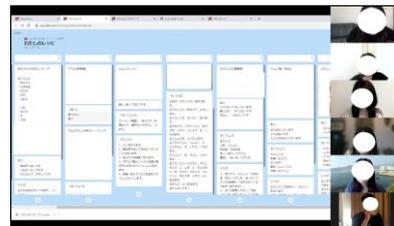
第38・40回学校型・第39回の交流型のクラスでは「防災」を扱った。第38・40回では、防災について情報を収集したり共有したりする際に必要な語彙や表現を学び、第39回の交流型では防災クイズ(学生ボランティア作成)をするなど、学校型から発展した形での活動を行った。該当日周辺は小さな地震が多かったこともあり、受講者の意識も高く、いつもにも増して熱心に授業に取り組んでいる様子が見られた。また、第38回・40回で扱った「非常持出袋」については、授業後に実際に準備したという声も聞かれ、日本語の学習だけでなく、教室が日本で生活する上で必要な情報共有の場となり、学習者の意識への働きかけもできたことがうかがえた。



○取組事例②

【第12回 令和3年6月21日】

交流型(月曜午後)クラスでは、主に学習者と学生ボランティアが情報共有を通して交流を行う活動を行った。第12回の授業では「レシピ紹介」とし、日頃使用しているZOOMに加え、Padletを利用して(写真右)それぞれ「おすすめのレシピ紹介」を行った。学習者は学校型で学んだ語彙や表現、もしくは自身が持っている日本語の力を駆使してレシピを作り、紹介した。学生ボランティアは「やさしい日本語」を使用し、分かりやすく話す工夫をした。伝えることが難しい場面でも、写真やイラストを駆使し、お互いに興味・関心を持って活動する様子が見られた。交流型の授業ではPadletの他、Jambordなども使い、学習者と学生ボランティアが主体的に活動を行い、交流する場を作っている。



(2) 目標の達成状況・成果

学習評価については、各回毎にその日の学習項目に対する自己評価を行った。コース評価については、最終回にコース全体に対するアンケートを行った。各回の自己評価は、個人差はあるものの回を重ねるごとに、各人の成長が見られ、コース評価は、全受講者から概ね「満足」との回答があった。また、学校型・交流型どちらのクラスに関しても、教材やトピックについて概ね「満足」の回答を得ている。よって、受講者からの満足度は高く、ニーズに合致した教室活動を実施できていたものと考えられる。初回参加者数の合計は、春21名・秋31名であるが、最終回の参加者数が春18名・秋28名で、定着率はどちらも90%を超えている。また、学生ボランティアのうちほぼ全員が「これからも地域の日本語教室で活動したい」と答えたことは大きな成果と言える。以上のことから、「学校型の授業」と「学生との交流型の活動」を通し、当初掲げていた「日常生活に必要な初級レベルの日本語会話能力を育成する」という目標は達成できたものと考えられる。さらに、講座終了後も受講者と学生ボランティアが自主的に「言語交流」を行いたいとの希望があり、数組、継続して日本語学習を続けている。講座を通し、日本語学習者とボランティアがつながる場を提供することができたことも成果のひとつだと考えている。

(3) 今後の改善点について

新型コロナウイルス感染拡大のため、昨年度に引き続きオンラインで授業を行った。最終アンケートでは、約8割の日本語学習者がオンラインでの授業実施を評価し、次年度もオンライン授業を希望している。(理由:アクセスの良さ、子どもがいても参加しやすい等)一方で、一度はみんなと会いたかったという希望も出ている。日本語学習者同士や学生ボランティアとの「つながりの場」を作るためにも、次年度は、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、コース終了後に対面での活動を追加することなどを検討したい。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称: 日本語ボランティアのための活動基礎講座】

取組の目標	日本語ボランティアのための活動基礎講座									
内 容	<p>2.5時間1コマの講座を夏6コマ、冬6コマ行った。各講座の構成は以下のとおりである。これは文化庁の「生活者としての外国人」に対する日本語教師(初任)研修の項目を参考にしている。ただし、近くで一般公開しているさほうと21が活動基礎講座で扱っているテーマは重複しないように配慮している。参加者に制約はないが、募集に関しては高校生大学生の目にとまるように広く広報を行った。また、以下の講座以外に、高校生大学生だけをターゲットにしたものを秋に1コマ実施した。</p> <p>【夏講座】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、言語習得 2、実践報告 大人の多い教室講座のカリキュラムデザイン 3、「生活者としての外国人」のための教材・教具のリソース 4、実践報告 子どもと親の支援教室 5、ベトナム人対象の日本語教育 6、実践報告 女性の多い教室 <p>【冬講座】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、実践報告 コーディネーターの役割 2、最小限必要な文法とその教室活動 3、やさしい日本語 4、実践編 教材紹介:文化庁日本語学習サイト「つながるひろがる にほんごでのくらし」等 5、地域コミュニティをつなぐコミュニケーションとは 6、実践編 子どもの支援 									
実施期間	令和 3年 7月 24日～令和 4年 1月 15日			授業時間・コマ数	1回 2.5時間 × 12回 + 2時間 = 32時間					
対象者	日本語ボランティアを始めたばかりの一般市民/高校生・大学生			参加者	総数 503人 (受講者486人, 指導者・支援者等17人)					
カリキュラム案活用	『日本語教育人材の養成・研修の在り方について』にある「生活者としての外国人」に対する日本語教育人材をよく考慮し、講座の講師を選んだ。『カリキュラム案』、『ガイドブック』、『教材例集』、『日本語能力評価』を直接扱う講座を設けることはできなかったが、これらを実際に使っている聖心の教室を紹介した。また、『カリキュラム案』に沿って作成されている文化庁学習サイト「つながるひろがる にほんごでのくらし」を紹介する講座を設けた。									
使用した教材・リソース										
受講者の出身(ルート)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
										486
養成・研修の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和3年7月24日(土) 10:00~12:30	2.5	オンライン	40	実践紹介	「オルビス日本語教室(茨城県水戸市)の紹介」~多様な学習者を迎える教室~	山田野絵	コーディネーター:1名		
2	令和3年7月24日(土) 13:30~16:00	2.5	オンライン	38	理論紹介	「地域日本語教室の教材を考える」~日本語教育専門の本屋さんが、地域日本語教室で使えそうなおすすめ教材を紹介~	渡辺唯広 大橋由希	コーディネーター:1名		
3	令和3年8月14日(土) 10:00~12:30	2.5	オンライン	38	実践紹介	「ムスリム女性のための日本語教室」(群馬)&「聖心女子大学日本語教室」(東京)の紹介~女性が多い教室~	和泉智恵 中川美保	なし		
4	令和3年8月14日(土) 13:30~16:00	2.5	オンライン	34	理論紹介	「ベトナム人学習者の対応を考える」~ベトナム人に日本語を教えるための発音ふしぎ大百科』の著者が支援のコツを紹介~	松田真希子	コーディネーター:1名		
5	令和3年8月28日(土) 10:00~12:30	2.5	オンライン	32	実践紹介	「ピナット(東京三鷹・武蔵野)の活動紹介」~大人から子どもまで、活動の広がりボランティアの役割~	新居みどり	コーディネーター:2名		
6	令和3年8月28日(土) 13:30~16:00	2.5	オンライン	30	理論紹介	「言語習得のしくみを考える」~言葉を習得するメカニズムについて基本的なことから最新の見解も含めて紹介~	奥野由紀子	コーディネーター:1名		
7	令和3年11月13日(土) 13:00~15:00	2	オンライン	19	実践紹介	国際化社会で私たちにできること「地域日本語教室ボランティアのすすめ」	岩田一成	発表者:2名 コーディネーター:2名		

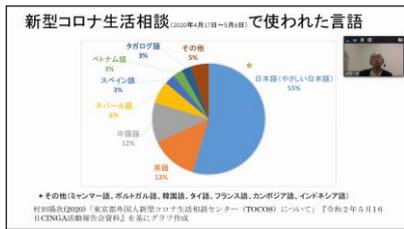
8	令和4年1月15日(土) 10:00~12:30	2.5	オンライン	46	実践紹介	「日本語学習の「場づくり」～コーディネーターの役割を考えながら～」	矢崎理恵	コーディネーター:1名
9	令和4年1月15日(土) 13:30~16:30	2.5	オンライン	46	理論紹介	「省エネ文法と歩み寄り」～最小限必要な文法とその教室活動～	森篤嗣	コーディネーター:1名
10	令和4年1月15日(土) 10:00~12:30	2.5	オンライン	41	理論紹介	「「やさしい日本語」について考える」～わかりやすい伝え方と外国人の評価～	柳田直美	コーディネーター:1名
11	令和4年1月15日(土) 13:30~16:30	2.5	オンライン	42	実践紹介	「学習者のしたいことができるようになる教材」～「つながるひろがるにほんごでの暮らし」などの紹介～	中川美保 深江新太郎	コーディネーター:1名
12	令和4年1月15日(土) 10:00~12:30	2.5	オンライン	39	理論紹介	「地域コミュニティをつなぐコミュニケーション」～複言語複文化能力から考える～	松岡洋子	コーディネーター:1名
13	令和4年1月15日(土) 13:30~16:30	2.5	オンライン	41	実践紹介	「私たちが出会った東広島の子供たち」～地域ボランティアの試み～	間瀬尹久 奥村玲子	コーディネーター:1名

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第7回 令和3年11月13日】

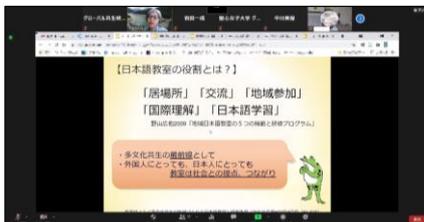
受講者を「高校生・大学生」に限定し、講座を実施した。オンラインで行ったため、聖心女子大学のある東京を中心に全国から受講者が集まった。講座では、「日本語ボランティアのすすめ」と題して、日本語や日本語教育のおもしろさから、地域日本語教室について等幅広く興味を持ってもらう内容とした。また、ゲストスピーカーとして、聖心女子大学地域日本語教室で学生ボランティアとして活動している大学生に体験談を話していただいた(写真右)。日本語教室にボランティアとして参加するきっかけとなった高校時代のエピソードやボランティアとして活動する中で感じたことや活動する中で気づいていることなど、経験を踏まえ話をしてくださった。高校生だけでなくこれから地域日本語教室でのボランティアを希望する大学生にとっても活動の様子を具体的に知ることでできる時間となった。



○取組事例②

【第1回 令和3年7月24日/第8回 令和4年1月15日】

夏講座・冬講座共に初回の講座は、「地域日本語教室を知る(イントロダクション)」を軸に据え講義を行っていただいた。夏講座の第1回目(第1回・7月24日)では、茨城県にあるボランティアグループ・オルビスの山田野絵先生に「日本語教室の役割と教室の実践紹介」を行っていただき(写真左)、冬講座の第1回目(第8回・1月15日)では、東京都にあるさぼうと21の矢崎理恵先生に「コーディネーターの役割と教室の実践紹介」を行っていただいた(写真右)。昨年度より、受講者のアンケートで「教室のあり方」や「コーディネーションの方法」についての講座を希望する声が多くあり、実現したものである。連続講座の初回にイントロダクションの時間を設けることで、改めて「地域日本語教室」について考える時間となり、後に続く講座の基礎となった。また、実践紹介を踏まえてお話をしていただくことで、講座後のアンケートでは「多角的な気づき、ヒント、スタンス、視点を得た」や「改めて自分がどんな場を作っていきたいか考えるきっかけになった」などのコメントが寄せられ、受講者それぞれの実践の場へのつながる時間にもなったことが伺えた。



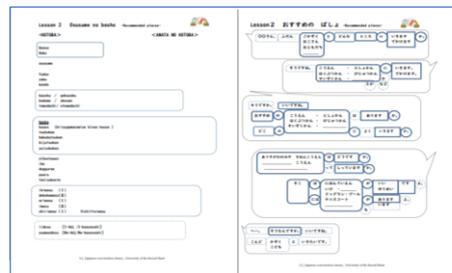
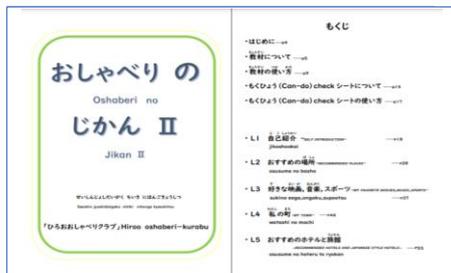
(2) 目標の達成状況・成果

全回、非常に好評でいずれの回も95%以上の参加者が「とても良かった/面白かった」と回答している。また、第7回の「高校生・大学生」の講座では、「日本語・日本語教室に興味を持った」という意見だけでなく「もともと日本語教室ボランティアに興味があったわけではなく、自分の興味を広げたいと思って参加しましたが、素直に、楽しそう!と思った」など今後ボランティアとして活動してみたいというコメントが多数あった。一般講座と合わせて、幅広い年齢のボランティア・ボランティア希望者にアプローチできたことは大きな成果と考える。また、夏講座・冬講座共に講座後のアンケートでは「全般的に有益な講義内容であった」という意見と共に、「参加者同士のディスカッションタイムも色々な情報を交換することができて非常に有意義であった」等、各講座で行ったブレイクアウトセッションへの肯定的な意見が多く見られ、当初掲げた講座の目標である「ボランティアの基礎知識の習得」のみならず、受講者同士の情報交換の場も提供できたものとする。

(3) 今後の改善点について

昨年度の講座、今年度夏講座のアンケート結果(受講者からの要望)を踏まえ、冬講座は内容を一新した。このことによっては、今年度は全13回、全て違う講座内容で実施し幅広い分野について扱うことができた。しかし、受講者からは参考となる具体的な教室運営や教材の使用法についての要望は変わらず出ている。今後は、文化庁の助成により聖心女子大学で作成した教材をより多くの人に知ってもらい活用してもらうために、広報活動に力を入れていきたいと思っている。

日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称：おしゃべりのじかんⅡ】			
取組の目標	旅行・買い物・仕事の雑談などの日常場面でのコミュニケーション(情報収集を含む)ができ、自分の趣味・家族・最近の出来事などを相手に伝えたり、相手に聞いたりすることができるようになる。		
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・文型は最低限に抑えて、語彙がたくさん習得できるような形式のトピック・場面別の会話例を教材化した。 ・文の構造をなるべくシンプルに見せ、視覚的に文の構造を理解しやすいように提示している。また、語彙の選択肢を多く提示し、会話の際に話し手が自由に語彙を選んだり追加したりしながら、自分自身として話すのに役立つような教材になっている。 ・「おしゃべりを楽しみながら、対話相手との情報交換ができ、さらに交流を深めることができる」教材であり、「日本での生活を充実させ、何かを計画する時に役立てることができる」教材である。 		
実施期間	令和 3年 5月28日～令和 3年 12月 3日	作成教材の 想定授業時間	1回 6時間 × 10回 = 60時間
対象者	地域在住で簡単な会話を学びたいと思っている外国人住民(主に、「日本語を勉強し始めて間もない人～短い文で身近な話題について話せる人」)	教材の頁数	122 ページ
カリキュラム案活用	<p>「日本語教育の実施」内容(『カリキュラム案』、『ガイドブック』、『教材例集』、『日本語能力評価』)に沿って進めた授業の流れを反映したものになっている。各課ごとのカリキュラム案該当箇所は、以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> L1 自己紹介 VII14(31) L2 おすすめの場所 IX20(44) L3 好きな映画、音楽、スポーツ VII14(31)、IX20(44) L4 私の町 VII14(31) L5 おすすめのホテルと旅館 IX20(44) L6 ストレス解消法 I 01(03) L7 祭り IX20(44)、VIII16(35) L8 ネットショッピング III05(08) L9 おすすめのレシピ VII14(32) L10 来年の話したいこと IX20(44) 		
事業終了後の教材活用	<ul style="list-style-type: none"> ・作成した教材を活用し、来年度も「日本語教育の実施」を行う。 ・文法積み上げ式以外の教材(作成した教材を含む)の存在とその内容を広く知ってもらえるような、教材の常設展示を実施する。 ・作成した教材を使った、教材の使い方(「日本語教育の実施」の方法)を説明する研修の実施も行う。 		
成果物のリンク先			



4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

聖心女子大学には日本語教育実践の場所や、日本語教育に関する専門的知見や実践ノウハウもある。そこに学生を巻き込む形で日本語教育人材の育成を展開する。聖心女子大学はキャンパス内に、聖心グローバルプラザを有する。聖心グローバルプラザは元々青年海外協力隊の合宿所などを備えたJICAの施設であり、国際交流の拠点として機能してきた。この施設を核にして、地域在住の外国人が集まれる場所を提供したいと考えている。教室数の少ない渋谷区に、物理的な教育の場所を確保することができるようになる。また学校法人聖心女子学院のネットワークを活用することで、広く高校生や大学生を対象とした人材育成を行い、地域の日本語教育に貢献したいと考える。若者が高校生や大学生の間に少しでも地域日本語教育に関わることで、本格的なボランティア活動を始めるきっかけになると考えている。具体的には、標準的なカリキュラム案を活用した教材の作成、それを生かした日本語教育の実施、日本語教育の人材養成・研修等の取り組みを実施し、地域の日本語教育の体制整備に貢献することを目的とする。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

日本語教室の数が少ないことを課題Aとした。実際に教室を運営することでこの課題には対応できたとと言える。日本語教室の運営と教材作成については、参加者の定着率がすべてを物語っている。春も秋も参加者の90%以上が最後まで参加した。しっかりとカリキュラムを組んで教室を運営すれば、地域日本語教室でも学習者が定着するのである。すぐに学習者が来なくなるという課題を各地の教室が抱えているが、定着率を上げることは可能である。教材は毎回ニーズを聞きながら内容を修正しているが、最後まで参加者が継続して教室に来たということで、ある程度内容が受け入れられていることを示している。ボランティアが高齢化していることを課題Bとして挙げた。よって本事業のボランティア養成は若い層に届くことを狙っていることがひとつの特徴である。講座を受けた学生が、大学の日本語教室でボランティアに参加し、教室が終了後もベアレッスンを継続している。課題Bはある程度達成されているといえる。学生時代に関わっていることで、将来時間が空いた時に地域の教室に関わる可能性が高くなる。ボランティア養成のアンケートが高評価を得ていることはすでに記述しているが、大学という立場を生かして各専門家へ依頼をかけ非常に質の高い講師陣を招くことができた。これが参加者の満足度につながったと言える。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

本事業は、日本語教室の展開を話題・場面シラバスで実施している。シラバス作成は、『カリキュラム案』の「生活上の行為の事例」から、場面を参考にしている。話題・場面シラバスで授業を行うと、学習者のニーズに柔軟に対応することができる。今回も「新型コロナ」を授業で扱ってほしいという希望が出て、すぐに授業に組み込むことができた。また、「防災情報」など生命に直結する話題も扱うことができた。これが話題・場面シラバスの長所である。カリキュラム案を実際に教室活動に活用してみて気づいた点は、教員の質の問題である。「文法事項だけを取り出して授業を行わない」という方針を徹底するには、教員の柔軟性が必要であると言える。聖心女子大学は都内にあり、優秀な人材を集めやすいが、初級で文法積み上げ式以外の選択肢を持つ教員を確保するのは簡単ではないと常々感じている。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

本事業は聖心女子大学が核となりつつ運営委員会に渋谷区社会福祉協議会ボランティアセンター、東京都つながり創生財団の担当者、港区日本語教育コーディネーターや民間団体である、さほうと21の職員に入っている。つまり、東京都、渋谷区、港区という聖心女子大学を取り巻く公的機関の関係者と連携しつつ、民間団体からの助言がいただける関係性を構築できている。この体制での一つ目の効果は、今後の方針を立てる際に的確な助言をいただけることである。運営委員会では、各参加者の所属組織が抱える課題を共有しつつ、聖心女子大学ができることを常に検討している。もう一つの効果は、宣伝体制である。日本語教室やボランティア養成講座の募集を各組織で協力して行ったため、応募数が安定してきた。日本語教室は各曜日、ほぼ定員に達している。ボランティア養成講座は、定員をはるかに超える応募があり、お断りをしている状況である。□

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

大学・研究所ウェブサイト、SNS、メーリングリスト(1800件程度)等、研究所広報媒体の活用とともに、広尾商店街・ナショナル麻布、教会等地域団体などの地域未着型の広報を行った。また、他団体(つながり創生財団、JANIC、JICA、東京日本語ボランティアネットワーク、渋谷ハチコウ大学、関東ESD等)との連携広報も行うことで、日本語学習者、ならびに日本語教室ボランティアへ情報が届くよう情報発信を行った。事業成果の地域への発信については、当研究所内での日本語教材の設置などでの発信を行っている。

(6) 改善点、今後の課題について

現在の課題は、まず大学生ボランティアの参加に関する教員側の対応である。授業の質を保つために、かなり教員側で授業をコントロールして実施している。よって、ボランティアは指示に従って動くことが多い。せっかく大学生が関わっているので、交流型クラスではもう少し内容を任せてしまってもいいのではないかと常に悩んでいる。もう少し権限を与えて内容を任せると、学生が主体となって創造的な活動ができる一方、負担が増えるのではないかと危惧している。運営面の課題は、受け入れ人数の問題である。教室の存在が認知され、各定員がほぼ飽和しつつある現在、これ以上の受け入れができない。継続して教室を開催できるようになった場合、定員をどうするのか検討しなければならない。

(7) その他参考資料

- ・2021にほんご講座(春)チラシ
- ・2021にほんご講座(秋)チラシ
- ・【高校生・大学生対象】聖心女子大学 ボランティア養成2021.ちらし
- ・2021夏【一般】ボランティア養成.ちらし
- ・2021冬【一般】ボランティア養成.ちらし